

## 先住民と文明との出会い

2021年3月16日

下村拓滋

先住民が文明を受け入れた動機、そこに、SDGsを実現する鍵がある。

先住民にあって文明が忘れていたこと

私が公であり、公が私

文明にあって先住民になかったこと

土地の私有、お金

「文明社会と未接触の先住民」のパラドックス 2018/07/07 16:00

<https://toyokeizai.net/articles/-/228249?page=2>

“ゴム農園で奴隷にされた5人のイネ族の男が、パトロンを殺した。木の棒でめった打ちにしたのだ。

5人の男は仲間を奴隷小屋から救い出し、共に森へ逃げた。迫り来る追っ手から逃げながら、誰かが言った。全滅だけは避けよう。二手に分かれて逃げよう。

故郷での再会を誓って、彼らは森で別れた。一方はこちら側の森へ逃げ、もう一方はあちら側の森へ逃げた。

その後、生き別れた仲間たちを探しきれなかった曾祖父たちは、その思いを、子孫たちに代々語り継いできた。「ノモレ（仲間）に会いたい。ノモレ（友）を探してくれ」”

文明人は先住民を奴隷にするため未開の地へやって来た。

先住民の中には文明人の持ち込んだ病原菌により滅亡した民族もある。

「感染症から読み解くスペインの新大陸征服と植民地史」（2020年8月）

<https://www.ide.go.jp/Japanese/Library/Column/2020/0817.html>

現在も文明との接触を拒否している部族はいる。

「外界と“接触していない”部族、世界には100以上」（Mar. 17, 2018）

<https://www.businessinsider.jp/post-163378>

先住民問題は欧米の植民地支配の影で長い間表に出てこなかったが、1970年代以降、世界各地で知られることとなった。日本にもアイヌを支配して来た歴史がある。

1940年代まで「闇の中」

1950年代から民族独立運動が始まる

長年表舞台に出てこなかった理由（筆者の視点）

1. 多数派民族（入植者）の進出で辺境の地に追いやられた
2. 文字を持たなかった
3. 多数派民族によって分散させられた
4. 政治に参加できなかった
5. 独自の言語を禁じられた
6. （5に関連して）独自の文化を伝承できなくなった
7. （1から6の結果）文化的な統合力がなくなった

1960年代にベトナム戦争の開始で米国内で黒人差別が社会問題となり、続いて先住民への差別が表舞台に出てきた。

1970年代に入ると、「先住民差別に対する歴史的告発」が相次いで各国でなされた。

1993年「第一回先住民サミット」

“コロンブスは、多くの民衆に苦難と抑圧をもたらしたインベーダーのリーダーにすぎない、新大陸を発見したのはわれわれ先住民の先祖であってそれは3万年も前だと、先住民の運動団体は断固反対の旗を高く掲げた。”

“今日(2004)では、先住民の文化とそのアニミズム思想は、人類文化の源流として見直されるようになった。彼らの造形芸術も改めて高く評価され、そのすばらしいデザインと形象力は、今ではポスト・モダンのあり方を示唆するものとして脚光を浴びつつある。”

“先進文明社会になればなるほど、自然環境が破壊され、社会秩序も乱れ、人間関係もバラバラになってくる。そのことは各国の統計的数値の国際的比較からみても明らかであって、現代日本でわれわれが体感しているところだ。”

“カナダでは「インディアン問題・北方開発」省が設けられていたが、2002年6月に同省から「先住民統治法」(First Nations Government Act)が下院に提出された。

...

この法案では、先住民が自然と共生してきた固有の生活権、数千年にわたって生活文化の分野で獲得し積み重ねてきた自前の権利、すなわち、《先住民権》がはっきり規定されていないというのが主な対立点である。”

先住民は自然と共に生きているので、その土地の自然を良く理解している。

先住民の話聞くことが自然の保護に繋がる。  
自然の保護が持続可能な地球だと考えて良いのか。

自然の多様性を保護するならば、民族の多様性を維持するのが論理的。

先住民が文明を受け入れた動機は分からなかった。  
今でも受け入れていないのかも知れない。

以上